



HPはこちら

# 東日本ユニオン NEWS

JR東日本労働組合  
発責 教育・広報部  
2020年2月9日 No.169



## 2020春闘要求

1. 基本給ならびに初任給を、社員一律 6,000 円引き上げること。
2. 定期昇給を実施すること。定期昇給は 4 係数とすること。
3. エルダ―社員の基本賃金を、一律 6,000 円引き上げること。
4. グリーンスタッフの基本賃金を、一律 6,000 円引き上げること。
5. 終身雇用・年功序列型賃金形態を将来にわたって維持すること。
6. 第二基本給を廃止すること。

東日本ユニオンは2月8日、東京都「ホテルラングウッド」において「第7回中央委員会」を開催しました。中央委員会には180名を超える組合員が結集し「安全の確立」をはじめ「2020春闘」「組織強化・拡大」「労働条件・労働環境の改善」を柱とする「当面の活動方針」を満場一致で確立しました。

**「3.3春闘総決起集会」に全組合員参加！**  
**JR労働者の力を結集し要求満額を勝ちとろう！**

## 委員会宣言(案)

本日、私たちは「ホテルラングウッド」において「第7回中央委員会」を開催し、大会以降の取り組みを総括するとともに、「2020春闘」における賃金改善6,000円を柱とする要求を満場一致で確認した。

JR東日本における春闘は最大の危機を迎えている。労働組合に加入するJR労働者が3割を切ったと言われる今、経営側は労働者同士の絆を断ち切る総仕上げにかかり、賃金改善における職制による賃金格差の拡大、また「働き方改革」の名の下で高度プロフェッショナル制度導入に向けた規定整備の開始等、経済界の意向に沿う形で競争原理を色濃くしてきている。

そのような環境下においても、すべてのJR労働者は日々の経験や自己研鑽を積み重ね、年々労働力の価値を高め続けている。私たちは労働力の価値に相応しい賃金を得るとともに、JR労働者の生活の向上を実現するために「3月3日の春闘集会に全組合員が参加」し、さらには他労組、未加入のJR労働者の結集をもつくりだす決意に立った。春闘の燈を絶やさず、JR労働者の生活向上を実現させるために、全力を尽くして「2020春闘」に取り組んでいく。

経営側は「変革2027」を柱とした施策を矢継ぎ早に打ち出し、実施を急いでいる。しかし、労使議論が尽くされる以前の「実施ありき」の経営側の姿勢は施策の準備不足を招き、現場労働者に混乱を与えている。そして、全容の見えない施策に組み込まれた現場労働者は、将来も見通せず困惑している。

私たちはスピード感のある施策実施について否定はしない。しかし、労働者にとって施策における「安全と働きがい」の担保は不可欠である。労働者としてJR東日本の発展に責任を持つべく、自らが思い描くあるべき施策と経営側の示す施策との乖離を一人ひとりが発信し、組織の要求へと高め「団体交渉」を通じて「安全と働きがい」が実感できる施策を実現していく。

3月には常磐線一部不通区間が復旧し、全線で運転を再開する。また、7月には2020東京オリンピック・パラリンピックも控えている。過去に類を見ない課題が山積する中、現場からは様々不安の声が上げられている。私たちは現場におけるチェック機能を発揮することで問題点を摘出し、一つひとつの課題を克服していく。

第7回大会以降、3名の新たな仲間を迎え入れることができた。これは、日々の関わりや世話役活動もさることながら、私たちが経営施策や職場諸問題と正面から向き合い、改善の取り組みを続ける「労働組合としての姿勢」を他労組や未加入のJR労働者に伝え「一緒にやろう！」と訴えた結果である。

労働組合の最大の武器は「組織力」である。「2020春闘」を組織拡大の山場にしよう！すべての組合員は他労組および未加入のJR労働者に「3月3日の集会に一緒に行こう」と発信しよう！「2020春闘」要求の実現の過程を通じて組織拡大を実現しよう！

私たちはJR労働者の結集を武器に、JR労働者の未来に向けた新たな一歩を今、すべての組合員とともに踏み出すものである。

以上宣言する。

2020年2月8日  
JR東日本労働組合  
第7回中央委員会